

日本川崎病研究センターニュースレター

(No. 41) 2021. 1. 1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

丑年の年頭に当たり

今田義夫

昨年は当センターにとり、大変残念な、忘れられない年になってしまいました。

2月13日には、小川和榮先生が97歳で逝去されました。先生は川崎先生の少年時代を知る数少ない方で、当センターの前身である川崎病研究情報センター設立にもご尽力され、更に当センター設立当時から監事として参画されるなど、当センターの生みの親、育ての親とも言える方です。

6月5日には大黒柱である川崎先生が亡くなり、一同、途方に暮れていた最中、9月27日には「川崎病の子供を持つ親の会」の代表で、当センターでも設立当時から理事を務めていただいた浅井満さんが急逝されました。浅井さんは、平成11年9月18日に文京シビックセンターで行われた日本川崎病研究センター設立記念講演会では『川崎病の問題点（「親の会」17年の活動を通じて）』と題して、川崎病の原因究明への思い、そして、治療法、予防法の確立につき当センターへの期待を述べています。その後も長い間当センターの運営に寄与されました。浅井さんの多くの功績のうち、一つは、川崎先生との強い信頼関係のもと、「親の会」と医師・研究者との良好な関係を構築し、川崎病研究へ大きく貢献をされた事ではないでしょうか。川崎病関連のどの学会、研究会でも必ず出席されていて、本当に頭が下がる思いでした。3氏のご冥福を

改めて心からお祈りいたします。

さて、昨年は年頭からわが国もコロナ禍に襲われ、3、4月頃から主として欧米から新型コロナウイルス感染の小児例の中にショックを示す例や、川崎病類似の症状を示す例が相次いで報告されました。しかし、日本川崎病学会の緊急調査で、わが国では小児で感染を受けた症例で川崎病の臨床症状を示した例はなく、むしろこの間の、川崎病の発生が少なかったことがわかりました。これを受けて、5月には、当センターは日本川崎病学会と共同で「川崎病とCOVID-19に関する報道について」と題して、現段階では一般の方に過度の不安を煽ることのないよう声明文を発表いたしました。

次いで当センターでは新たに顧問に久留米大学の加藤裕久先生、監事に成育医療センターの阿部淳先生、理事に日赤医療センターの土屋恵司先生に就任いただいたことをご報告いたします。

本年10月には、中村好一、鮎沢衛両先生による、第13回国際川崎病シンポジウムの開催が予定されています。多くの研究成果が報告されることを期待したいと思います。

最後に、今回のニュースレターには、カリフォルニア大学サンディエゴ校の川崎病研究センターのJane Burns先生と東京女子医大八千代医療センター小児科の濱田洋通教授に執筆頂きました。お二人には心からお礼申し上げます。
(当センター 理事長)

The Birth of KD Awareness Day

Jane C. Burns MD

Translation by Chisato Shimizu MD

KD Awareness Day was born out of the desire on the part of families whose children had been affected by KD to raise awareness and tell others about what they and their children had gone through. The parents needed an outlet to tell the world about this condition, and they wanted a visual aid, because sometimes pictures speak louder than words. So, in 2010 a group of dedicated parents associated with the KD Foundation in Boston began work on the KD Poster and KD Awareness Day at the same time.

The parent group consulted me about the idea and suggested that that Jan 26th should be the day because it was the date that Dr. Kawasaki saw his second patient and had his "aha" moment. On December 12, 2010, now 20 years ago, I wrote the following email to Dr. Kawasaki: "The KD Foundation in the U.S. has launched an effort to make Jan.26th , 2011, an international KD Awareness Day in celebration of the 50th anniversary of your discovery. This message is being spread all over the world in the hope that people will use this day to give talks about KD and raise awareness. I hope that you are pleased. We will let you know as soon as we hear if the U.S. Senate declares this an official observance. Even if they deny it, we are still spreading this intention to celebrate this day around the world. I have contacts in so many countries. It is such a pleasure to have so many KD friends throughout the planet!!"

On December 14th, Dr. Kawasaki responded with his characteristic humility and graciousness, "Thank you for your e-mail dated December 12, 2010. Whether January 26 is adopted officially or not, it is still a great honor for me to have you create this day. It is a humbling feeling that you are doing all this in my name, but I must admit that I am indeed pleased."

The parents worked hard to try to get January 26th declared as national KD Awareness Day. Two KD parents who have been ardent supporters of KD research, Patty and Donald Dawn, worked with aides in Senator Jim Webb's office to draft a resolution to put before the U.S. Congress. The world of politics is complicated and although a valiant effort was made with the support of many parents, the resolution was never formally adopted. A group of us (see photo) even travelled to Washington DC to present Dr. Kawasaki's calligraphy to Senator Webb. The resolution, however, was formally submitted as Senate Resolution 27 to the 112th Congress of the United States designating January 26, 2011 as "National Kawasaki Disease Awareness Day." It was officially recorded in the U.S. Library of Congress.

Although the resolution never came to a vote in the Senate, the KD Foundation launched January 26, 2011 as the first KD Awareness Day and it was formally recognized by the City

Council of San Diego. More importantly, this day has served over the years to bring parents from all over the world together to raise awareness and raise funds for KD research. It has served as a wonderful opportunity for parents to share their stories and to honor Dr. Kawasaki for his great contribution to pediatrics and to the children of the world.

(Professor and Director, Kawasaki Disease Research Center
Dept of Pediatrics, UCSD School of Medicine)



Pictured above from left to right: KD Parents Donald Dawn, Patty Dawn, Senator James Webb, Jane C. Burns MD, KD Parent Comischell Rodriguez.

写真 左から、川崎病患児の両親、パティとドナルド・ドーン、ジム・ウェブ上院議員、ジェーン・バーンズ先生、川崎病患児の親、コーンミシェル・ロドリゲス

(訳：清水智佐登、カリフォルニア大学
サンディエゴ校小児科医師)

KD Awareness Day (川崎病に対する認識を
高める日) のはじまり

ジェーン C. バーンズ、医師
KD Awareness Day は、川崎病に罹患した子供

たちの家族が、川崎病とはどのような病気なのか、川崎病患児とその家族がどのような体験をしてきたか、他の人に知ってもらいたいという気持ちから始まりました。患児の家族

は、川崎病を知らせる手立てとして、患者の症状の写真をのせたポスターを作って、世界中の人の視覚に訴えることが大事だと考えました。こうして、2010年にボストンに住む親の会の一部の献身的な家族が率先して、川崎病のポスターとKD Awareness dayを作る企画が同時に始まりました。

この企画について親のグループから相談を受けた私は、1月26日をKD Awareness dayにしたかどうかと提案しました。なぜなら、この日は、川崎先生が2番目の川崎患児を見て、「あっ、1年前に診たあの病気だ!」と思った日だったからです。20年前の2010年12月12日、私は川崎先生に次のメールを書きました。

「米国の川崎病の親のグループは、川崎先生の発見50周年を祝って、2011年1月26日を国際的なKD Awareness Dayにする取り組みを開始しました。人々がこの日を利用して川崎病について話をしたり、川崎病の認識を高めてくれることを期待して、この取り組みは世界中に広まりつつあります。川崎先生にも気に入っていただけるのではないかと思います。米国上院が公式にKD Awareness Dayを宣言した際には、すぐにお知らせします。米国上院が認めなかったとしても、私たちは世界中でこの日を祝うために、この企画を世界中に広めていきます。私はとても多くの国に知り合いがいます。川崎病を通じて、地球上にたくさんの友達がいるのはとても嬉しいことです!!」

その2日後12月14日に、川崎先生らしい謙虚さと優雅さで、お返事をいただきました。

「12月12日のメールありがとうございます。1月26日が公式に認められるかどうかは別として、あなたがKD Awareness Dayを作っ

てくれたのは、大変光栄なことです。少し気恥しい感じもありますが、正直に言って、本当にうれしく思います。」

親のグループは1月26日を米国KD Awareness Day とするために一生懸命努力しました。川崎病の研究を熱心に支持してきた川崎病患児の両親、パティとドナルド・ドーンは、ジム・ウェッブ上院議員の事務所の補佐官と協力して、米国議会に提出する決議案を起草しました。多くの親の支援を得て果敢な努力がなされましたが、政治の世界は複雑で、決議案は正式に採択されたことはありませんでした。私たちグループ（写真を参照）は、ワシントンDCに行き、川崎先生の直筆の「子宝」をウェッブ上院議員に提示しました。2011年1月26日を「米国KD Awareness Day」として指定するこの決議案は、第112回米国議会に上院決議案27として正式に提出され、米国議会図書館に正式に記録されました。

上院で決議案が投票されることはありませんでしたが、川崎病親の会は2011年1月26日を最初のKD Awareness Dayとして発足し、サンディエゴ市議会によって正式に承認されました。さらに重要なことは、この日は何年にもわたって、世界中の親の川崎病への関心を高め、川崎病の研究のための資金集めに役立ってきました。川崎病患児の親が自分たちの話を共有し、小児科医学と世界の子供たちに多大な貢献をした川崎先生を称える素晴らしい機会となりました。

Japan-Kawasaki Disease Research Center

アジアにおける川崎病診療の国際交流活動の広がり -Asian Kawasaki disease clinical research network-

濱田洋通

川崎病はアジア人に多いと言われています。しかし、アジア各国が集まって川崎病診療について討議したり情報交換する機会はありませんでした。

2016 年春に川崎病研究センターの紹介で、メキシコの小児リウマチ医を短期留学で受け入れ、Berenise L Gámez-González (ベレ) 先生とコミュニケーションをとったのがこの活動のきっかけでした (図 1)。ベレ先生の話では、南米で 20 カ国の臨床医が集まり REKAMLATINA という名前で診療面の情報共有と共同研究を計画しているというのです (1, 2)。非常に澁刺としたベレ先生とその話をするうち、最も患者の多いアジア各国で川崎病の情報共有や共同研究ができれば素晴らしいんじゃないか、と思いました。

そこで、川崎病診療についてアジア諸国を対象として調査すること、をテーマにアジア諸国と交流し新たな治療の情報を得ると共に、新興国の診断・治療レベルの向上に寄与することを目的として活動を開始しました。日本が主体となることも意義を感じていましたので、私から発信しようと考えました。しかし私はそれまでアジアの先生方との交流はなかったので知り合いもおりませんでした。千

葉大学医学研究院公衆衛生学の尾内善広先生、国立循環器病研究センター小児循環器科の津田悦子先生、岡山大学循環器内科の赤木禎治先生がアジアの川崎病臨床医を紹介してくれました。また、2016 年から現在まで、日本川崎病学会研究小委員会の研究課題に採択していただき、研究として資金援助を受けることができました。

2016-17 年はメールでこのような活動に賛同してくれる医療者を集めました。協力してくれた方が更に同国の仲間を紹介してくれ、今では Asian Kawasaki disease clinical research network として 10 カ国 40 名以上で活動しています (図 2)。2016-19 年は、各国の川崎病の疫学、診断、治療、予後について現状を調査票を作成して情報をまとめ、2018 年 6 月に横浜で行われた国際川崎病シンポジウムで初めて一堂に会して各国の川崎病臨床の現状を共有しました (図 3)。ここでは、川崎病診療において各国で困っていることをテーマにして次の研究を行おうと呼びかけ、参加者の意見を聞いたところ、不全型川崎病について多くの意見が出ました。そこで、2019 年からはアジアにおける不全型川崎病の患者調査を研究テーマとし、倫理申請などの研究体制を整えました。2020-21 年現在は症例調査にはいっています。今回は初めて公表論文となる研究となる可能性があり、結果を楽しみにしています。

この活動によって交流が生まれたことで、2018 年はインド川崎病学会に尾内先生と私を呼んでいただきました。尾内先生は第 1 回インド川崎賞を受賞され受賞講演をされました。我々で 7 つの講演をこなしたいへんでしたが、何よりインドの Singh 教授の教室の若手の先生方と交流ができ、可能性を感じています (図 4)。

2020 年 1 月から新型コロナウイルス感染症が世界を席卷し、小児では Multi inflammatory syndrome - children associated with COVID-19 (MIS-C) という川崎病類似の症状を呈する疾患が欧米を中心に発生して、川崎病に係わる医師はこの疾患と川崎病の異同についても検討しています。MIS-C が 5 月初旬に報告されてから早速、メンバー達がメール上で意見をやりとりし、今年はその議論が一番盛り上がりました。現時点でインドから 3 例、韓国で 1 例目が論文報告されています(3,4)。MIS-C はアジアでは発生が少ないと思います。川崎病はアジアに多いのですが MIS-C は欧米に多く、この人種差は非常に興味深い点です。

コロナ禍で、今年 2020 年の第 40 回日本川崎病学会は Web 開催となり、三谷義英会頭がメンバーのうち 20 名を学会に招待していただきました。中国武漢の Hua Peng 先生、韓国の Lucy Youngmin Eun 先生は緊急特別企画において登壇してくれました。小さなきっかけで開始したこの活動が思いもよらぬ広がりをも

てくれていて、とても嬉しいです、期待しています。日本でこの活動に興味がある方がいたら、是非下記の日本のメンバーで連絡しやすい方宛、連絡を下さい。

濱田 洋通 (東京女子医科大学八千代医療センター小児科)、尾内 善広 (千葉大学医学研究院公衆衛生学)、高月 晋一 (東邦大学大森病院小児科)、緒方 昌平 (北里大学医学部小児科、緒方医院)、江波戸 孝輔 (北里大学医学部小児科)、江畑 亮太 (千葉大学医学研究院小児病態学)、津田 悦子 (国立循環器病研究センター小児循環器科)。

(東京女子医科大学八千代医療センター
小児科)

文献)

1. González-Mata A, et al. Rev Chilena Infectol 2014;31:330-332.
2. Ulloa-Gutierrez R, et al. J Pediatr Infect Dis Soc 2014;3:280-281.
3. Rauf A, et al. Ind J Pediatr 2020;87:745-747.
4. Kim H, et al. J Korean Med Sci 2020;35:e391.

Japan Kawasaki Disease Research Center
Japan Kawasaki Disease Research Center



図1 2016年ベレ先生を囲んで
(東京女子医大八千代医療センター小児科)



図3 国際川崎病シンポジウム2018(横浜)での
第1回会合

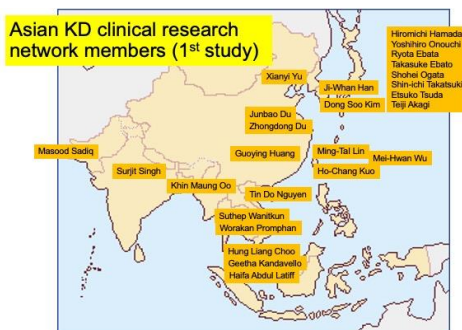


図2 Asian Kawasaki disease clinical
research network のメンバーと国



図4 第1回インド川崎病学会2018のレセプション

Japan Kawasaki Disease Research Center
Japan Kawasaki Disease Research Center

ニュースレターNo.41をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せ下さい。

事務局から

【センター日報】

2020年5月8日 2020年度第1回理事会開催 6:00pm～（於:当センター） 中止

2020年6月6日 2020年度総会と研究報告会開催（於:当センター） 2:00pm 小人数・委任状
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に
当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。

2020年6月6日 2020年度第2回理事会開催 4:00pm～（於:当センター）

2020年8月21日 2020年度公募研究選考委員会開催 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議

2020年8月21日 2020年度第3回理事会開催 5:30pm～（於:当センター） Zoom 会議

2021年3月12日 2020年度第4回理事会開催予定 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数】 2020年12月末現在

。 [正会員：64名、3法人、3任意団体]：[賛助会員：99名、1法人、0任意団体]

【学会・研究会・国際シンポジウム】

★ 第45回近畿川崎病研究会 2021年3月6日（土）13:00～ 於: Web 開催
運営委員長:鈴木啓之先生（和歌山県立医科大学小児科）

★ 予定：2021年度東海川崎病研究会 2021年5月15日（土）14:00～ 於:名古屋国際セン
ター 代表世話人:加藤太一先生（名古屋大学小児科）

★ 未定：2021年度関東川崎病研究会 2021年 月 日（土） 於:日赤医療センター講堂
事務局:土屋恵司先生（日赤医療センター小児科）

★ 予定：第41回日本川崎病学会 2021年11月 於:（東京）
会頭:鮎澤衛先生（日本大学医学部小児科）

★ 第13回国際川崎病シンポジウム 2021年10月29-31日 於: Web 開催（東京）
会頭:中村好一先生（自治医科大学公衆衛生）:鮎澤衛先生（日本大学医学部小児科）

★ 「川崎病の子供をもつ親の会」 問い合わせ先：Tel：0467-55-5257

新会員募集にご協力ください!!!

正会員 年会費 20,000 円

賛助会員 年会費 5,000 円

【川崎病に関するご相談】

専用アドレスを開設しました。<kdcentersoudan@gmail.com> 担当理事が、随時返信で
お答えさせていただきます。電話・Faxによるご相談はご遠慮ください。

~~~~~  
特定非営利活動法人日本川崎病研究センター

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6 階

Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124